

## 9/12-18 聖書日課と分かち合い

### 9月12日(月) Iペトロ 1:11 それがどの時期を指すのか調べた

預言者たちは、自分たちの内におられるキリストの霊が、キリストの苦難とそれに続く栄光についてあらかじめ証しされた際、それがだれを、あるいは、どの時期を指すのか調べたのです。

次節に「自分たちのことではなく、あなたがたのためであるとの啓示を受けました」とあります。このペトロの手紙一は世界の各地に離散し、仮住まいをしている選ばれた人たちに送っていますので、聖書で言うところの異邦人、私たちへの救いのメッセージであることが記されています。恵みですね。

### 9月13日(火) エレミヤ 29:10~11 七十年の時が満ちたなら

10 主はこう言われる。バビロンに七十年の時が満ちたなら、わたしはあなたたちを顧みる。わたしは恵みの約束を果たし、あなたたちをこの地に連れ戻す。11 わたしは、あなたたちのために立てた計画をよく心に留めている、と主は言われる。それは平和の計画であって、災いの計画ではない。将来と希望を与えるものである。

常盤台教会の 2020、2021 年度の年間聖句の箇所です。私たちの信じる神さまは約束を必ず果たして下さる方であると聖書を通して知ることができます。その神さまによって将来と希望が与えられています！

### 9月14日(水) ネヘミヤ 1:5~11 わたしも、わたしの父の家も罪を犯しました

5 わたしはこう祈った。

「おお、天にいます神、主よ、偉大にして畏るべき神よ、主を愛し、主の戒めを守る者に対しては、契約を守り、慈しみを注いでくださる神よ。6 耳を傾け、目を開き、あなたの僕の祈りをお聞きください。あなたの僕であるイスラエルの人々のために、今わたしは昼も夜も祈り、イスラエルの人々の罪を告白します。わたしたちはあなたに罪を犯しました。わたしも、わたしの父の家も罪を犯しました。7 あなたに反抗し、あなたの僕モーセにお与えになった戒めと掟と法を守りませんでした。

8 どうか、あなたの僕モーセにこう戒められたことを思い起こしてください。『もしも背くならば、お前たちを諸国の民の中に散らす。9 もしもわたしに立ち帰り、わたしの戒めを守り、それを行うならば、天の果てまで追いやられている者があるとしても、わたしは彼らを集め、わたしの名を住まわせるために選んだ場所に連れて来る。』10 彼らはあなたの僕、あなたの民です。あなたが大いなる力と強い御手をもって贖われた者です。

11 おお、わが主よ、あなたの僕の祈りとあなたの僕たちの祈りに、どうか耳を傾けてください。わたしたちは心からあなたの御名を畏れ敬っています。どうか今日、わたしの願いをかなえ、この人の憐れみを受けることができるようにしてください。」

この時、わたしは献酌官として王に仕えていた。

「献酌官」とは、言葉通り王様の飲むお酒の毒見をする役職ですが、王の信頼を受け、常に王の側にいて、王と親しい関係にあり、政治的な助言もしていたそうです。バビロン捕囚の時代にエルサレムの荒廃したままの現状を聞き、この祈りを捧げました。(ネヘミヤの祈り) この後、ネヘミヤは王の許しを得て、エルサレムの壁の修復に向かいます。

## **9月15日（木）列王記上 8：46～50 ソロモンの祈り**

46 もし彼らがあなたに向かって罪を犯し、——罪を犯さない者は一人もいません——あなたが怒って彼らを敵の手に渡し、遠くあるいは近くの敵地に捕虜として引いて行かれたときに、47 彼らが捕虜になっている地で自らを省み、その捕らわれの地であなたに立ち帰って憐れみを乞い、『わたしたちは罪を犯しました。不正を行い、悪に染まりました』と言い、48 捕虜にされている敵地で、心を尽くし、魂を尽くしてあなたに立ち帰り、あなたが先祖にお与えになった地、あなたがお選びになった都、御名のためにわたしが建てた神殿の方に向かってあなたに祈るなら、49 あなたはお住まいである天にいましてその祈りと願いに耳を傾け、裁きを行ってください。50 あなたの民があなたに対して犯した罪、あなたに対する反逆の罪のすべてを赦し、彼らを捕らえた者たちの前で、彼らに憐れみを施し、その人々が彼らを憐れむようにしてください。

ソロモン王が主に用いられ、エルサレムに神殿を再建し、契約の箱を定められた場所に安置した後の 2 ページに及ぶ祈りの終わりの部分です。罪を犯さない者は一人もない私たちなので、立ち帰ることで赦して下さる神さま。そして今はイエス様をお与え下さり、全ての罪をイエス様が背負って下さいました。もう至れり尽くせり過ぎなのです。

## **9月16日（金）ハバクク 2:2～3 それは必ず来る、遅れることはない**

2 主はわたしに答えて、言われた。

「幻を書き記せ。

走りながらでも読めるように

板の上にはっきりと記せ。

3 定められた時のために

もうひとつの幻があるからだ。

それは終わりの時に向かって急ぐ。

人を欺くことはない。

たとえ、遅くなっても、待っておれ。

それは必ず来る、遅れることはない。

神さまのご計画は人の想像を遥かに超えた壮大なもの。特に「時」に関しては、神さまのご計画の「時」と私たちの「時」の感覚はかなり違う印象を持ちます。願いごとは直ぐにでも叶えて欲しい思いがあるからかもしれません。とはいえ「必ず来る」という言葉は力付けられます。神さまの約束は必ず成就され、希望は失望に終わることはありません！

## 9月17日(土) 申命記7:6~8 主があなたたちを選ばれたのは

6 あなたは、あなたの神、主の聖なる民である。あなたの神、主は地の面にいるすべての民の中からあなたを選び、御自分の宝の民とされた。7 主が心引かれてあなたたちを選ばれたのは、あなたたちが他のどの民よりも数が多かったからではない。あなたたちは他のどの民よりも貧弱であった。8 ただ、あなたに対する主の愛のゆえに、あなたたちの先祖に誓われた誓いを守られたゆえに、主は力ある御手をもってあなたたちを導き出し、エジプトの王、ファラオが支配する奴隷の家から救い出されたのである。

「あなたに対する主の愛のゆえに」、私たちが何かをしたり、捧げたりすることで愛して下さるのではなく、先ず主の方から私たちを愛して下さっていることは本当に感謝です。主の愛は「無償の愛」。アガパンサスというお花を公園等でよく見るようになりました。初夏に薄紫の綺麗なお花をつけてくれます。「アガペー（“無償の愛“のギリシャ語）」と「アントス（“花“のギリシャ語）」合わせて「無償の愛の花」です。ですけど代表的な花言葉は「恋の訪れ」、恋愛の愛ではなく神さまが私たちに向けて下さる愛、親が子を思う方の愛なのですけど。

## 9月18日(日) ダニエル 9:1~19 ダニエルの祈り

1 ダレイオスの治世第一年のことである。ダレイオスはメディア出身で、クセルクセスの子であり、カルデア人の国を治めていた。2 さて、わたしダニエルは文書を読んでいて、エルサレムの荒廃の時が終わるまでには、主が預言者エレミヤに告げられたように七十年という年数のあることを悟った。3 わたしは主なる神を仰いで断食し、粗布をまとい、灰をかぶって祈りをささげ、嘆願した。4 わたしは主なる神に祈り、罪を告白してこう言った。  
「主よ、畏るべき偉大な神よ、主を愛しその戒めに従う者には契約を守って慈しみを施される神よ、5 わたしたちは罪を犯し悪行を重ね、背き逆らって、あなたの戒めと裁きから離れ去りました。6 あなたの僕である預言者たちが、御名によってわたしたちの王、指導者、父祖、そして地の民のすべてに語ったのに、それに聞き従いませんでした。7 主よ、あなたは正しくいます。わたしたちユダの者、エルサレムの住民、すなわち、あなたに背いた罪のために全世界に散らされて、遠くにまた近くに住むイスラエルの民すべてが、今日のように恥を被っているのは当然なのです。8 主よ、恥を被るのはわたしたちであり、その王、指導者、父祖なのです。あなたに対して罪を犯したのですから。9 憐れみと赦しは主である神のもの。わたしたちは神に背きました。10 あなたの僕である預言者たちを通して与えられた、律法に従って歩むようにという主なる神の声に聞き従いませんでした。11 イスラエルはすべて、あなたの律法を無視し、御声に耳を傾けませんでした。ですから、神の僕モーセの律法に記されている誓いの呪いが、わたしたちの上にふりかかってきたのです。あなたに対して罪を犯したからにほかなりません。12 わたしたちにも、わたしたちを治めた指導者にも告げられていた主の御言葉は成就し、恐ろしい災難が襲いました。エルサレムに下されたこの災難ほど恐ろしいものは、いまだ天下に起こったことはありませんでした。13 モーセの律法に記されているこの恐ろしい災難は、紛れもなくわたしたちを襲いました。それでもなお、わたしたちは罪を離れて主なる神の怒りをなだめることをせず、またあなたのまことに目覚めることもできませんでした。14 主はその悪を見張っておられ、それをわたしたちの上に下されました。わたしたちの主なる神のなさることはすべて正しく、それに対して、わたしたちは御声に聞き従いませんでした。15 わたしたちの神である主よ、強い御手をもって民をエジプトから導き出し、今日に至る名声を得られた神よ、わたしたちは罪を犯し、逆らいました。16 主よ、常に変わらぬ恵みの御業をもってあなたの都、聖なる山エルサレムからあなたの怒りと憤りを翻してください。わたしたちの罪と父祖の悪行のために、エルサレムもあなたの民も、近隣の民すべてから嘲られています。17 わたしたちの神

よ、僕の祈りと嘆願に耳を傾けて、荒廃した聖所に主御自身のために御顔の光を輝かしてください。18 神よ、耳を傾けて聞いてください。目を開いて、わたしたちの荒廃と、御名をもって呼ばれる都の荒廃とを御覧ください。わたしたちが正しいからではなく、あなたの深い憐れみのゆえに、伏して嘆願の祈りをささげます。19 主よ、聞いてください。主よ、お赦してください。主よ、耳を傾けて、お計らいください。わたしの神よ、御自身のために、救いを遅らせないでください。あなたの都、あなたの民は、御名をもって呼ばれているのですから。」

ダニエル書という3章のダニエルの同期の三人が王様の命令より神さまへの信仰を選び取り、燃え盛る炉の中に縛られたまま放り込まれても主に守られ、炎の中で燃えるどころか何の影響を受けず歩き回っていた出来事が衝撃的です。ダニエル自身も彼らと同じく神さまへの強い信仰を持った方であり、この箇所はその彼のとりなしの祈りです。今までの神さまから離れ、従わなかった同胞の行いを「わたしたち」と自分の罪として受け止め、「お赦してください」と嘆願しています。

(担当 : Y.K.)